

不老仙館 (登米市東和町米谷)

仙台藩十三代藩主伊達慶邦(一八二五〜一八七五)の領内巡視の際、嘉永五年(一八五二)に宿泊所として旧狼河原村(登米市東和町米川)に建てられた。その後、明治三十九年(一九〇六)から三年をかけて現在の登米市東和町米谷に移築された。玄関から西側の二階建て部分は、大正十年(一九二二)に増築されたものである。館内には、当時の文人たちによる書画が襖絵として仕立てられている。明治十七年(一八八四)頃、三谷を号していた時の作品は貴重である。

昭和四十七年(一九七二)に当時の東和町で指定文化財とし、現在の登米市に引き継がれている。



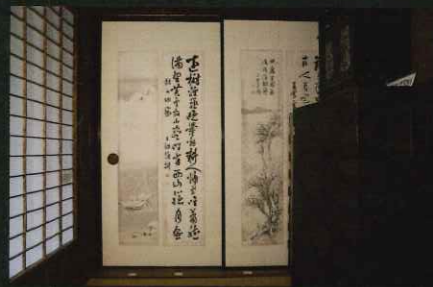
不老仙館外観 (登米市教育委員会提供)



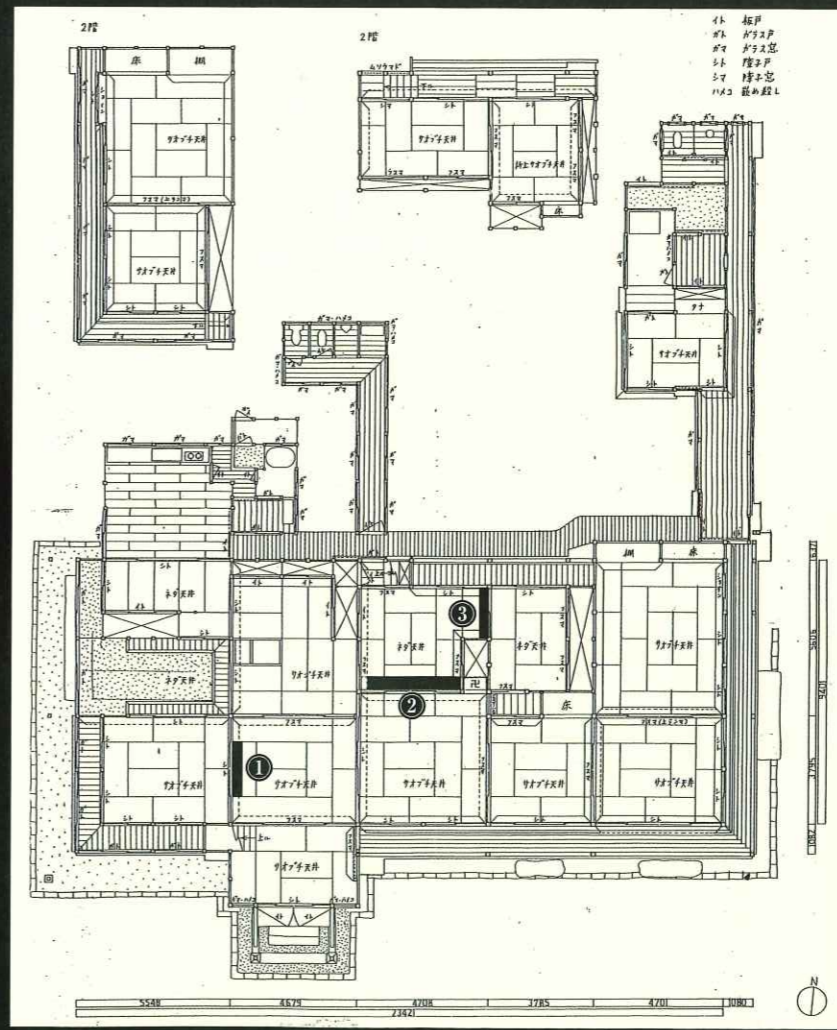
① 山水閣図



② 山水図2点



③ 山水図1点



不老仙館平面及び大内松華作品配置図



9 楼閣山水図 明治三十九年(一九〇六)十月 不老仙館収蔵



10 山水図 明治十七年(一八八四)不老仙館収蔵



11 山水図 明治十七年(一八八四)不老仙館収蔵



12 山水図 明治十七年(一八八四)不老仙館収蔵